

旅立ちの日 ～春らしい陽気の卒業式～

3月1日(土)第62回卒業証書授与式が挙行され、269名の卒業生が仙台南高等学校第10期生として学び舎から巣立ちました。学級担任による卒業生の呼名が行われ、各学級の代表が学校長から卒業証書を授与されました。卒業生からのサプライズとして、お世話になった先生方へプレゼントが贈られました。各学級の創意工夫が感じられるプレゼントに、先生方は感激していました。卒業生の旅立ちを祝う卒業式は、厳かな中にも感動と笑顔があふれる素晴らしいものになりました。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます！



式 辞

皆さんに入学を許可して以来3年が過ぎようとしています。この3年間に振り返っただけでも、社会がものすごいスピードで変化していることに気が付くはず。我が国では自民党が支持基盤を減らすと共に、政権も交代しました。米国でも共和党の大統領が誕生しました。生成型AIが瞬く間に普及し、中国のBYDが自動車生産台数でホンダを抜いて急成長してきました。従来の価値観では考えられなかったことが、短期間で起こっているのです。

輝かしい未来を切り拓く皆さんに一言アドバイスを送りたいと考えています。これから、大学、専門学校、職場など様々な場面で多くの人々と出会い、多くの解決しなければならない課題に取り組むことになります。その行動の原動力となるのが、自分が社会と繋がり、そして自分自身が社会の役に立っている意識を持てるかということです。自分の行動や仕事で社会とつながり、貢献できているという意識を持つことができれば、「やる気」・モチベーションを高めることができるはずです。

本校の図書館にもある、経営学で有名なドラッカーの著書「マネジメント」の中で紹介されている「3人の石切職人」の昔話を聞いたことがある人もいると思います。

ある旅人が石切職人に「何をしているのかね?」と尋ねました。1人目の職人は「これで暮らしを立てているのさ」と答えました。続いて2人目の職人は、「国中でいちばん上手な石切りの仕事をしているのさ」と答えた。3人目の職人は、その目を輝かせ夢見心地で空を見上げながら「人々の心の拠り所になる教会を造っているのさ」と自慢げに答えました。

この逸話は、自分の行動にどのような意味付けをするかを、3人の職人の言葉を通して示しています。1人目の職人のように「お金だけを目的」に考え、食べるためだけに働くことではモチベーションが高まらないことは理解できると思います。2番目の職人の「国で一番の技術を持つ、自分のプロとしての能力を高めること」だけが目的でも不十分なのです。職人気質や専門家としての狭い視野が、本来の仕事の目的を見失わないように気を付けなければならないのです。

目指すべきは、第3の職人のように「自分の仕事で社会に

どんな貢献を果たしているのか」という意識を持って行動することです。どのような意識を持ち、意味付けをするかによって、同じ仕事でも全く違う目的になるのです。

皆さんは近い将来、社会生活を送る上で職業人として仕事を持つことになります。すべての人が「やりたい仕事」に就けるとは限りません。どのような仕事であっても、第3の職人のような自分が社会に貢献しているのだという意識を待てば、大きな達成感を得られるのです。第1の石切職人のように「生計を立てるため」や、第2の石切職人のように「プロの職人としての誇り」という自分自身を満足させるだけで無く、社会に役立ち、他人を満足させる喜びは、仕事に対する使命感や達成感につながるのです。

貢献とは自分から他人に何かを提供することを意味する言葉です。貢献できているという意識は行動に使命感と達成感をもたらします。さらに、自分が成長していくための欠かせない考え方でもあります。貢献という give(ギブ)は、自己成長という gift(ギフト)ももたらしてくれるのです。

第3の職人は、目を輝かせて、誇りを持って、自分の仕事を語っています。社会に貢献できているという達成感だけでなく、自分自身も成長していることを実感していたのでしょう。

皆さんが活躍する10年後20年後の社会。デジタル技術が更に進み、仮想空間上のデジタル経済圏が成立し、全く新しい国際秩序の下、世界が動くかもしれません。私たちの生活の在り様も大きく変わるでしょう。しかし、自分の行動や仕事で社会とつながり、貢献できていることを意識してください。役に立たない人はいない。人は何らかの使命を持って生まれてきたのです。日々の行動や仕事に対するそのような意識を持てば、充実した人生を送ることができるはずです。

皆さんが漕ぎ出してゆく、世界という広い海は前途洋々としています。時として困難に直面することもあるでしょう。そんなときは仙台南高等学校で学んだ豊かな教養と、何事にもチャレンジするスピリットで懼(おそれ)ることなく道を切り開いて行けるはずです。私が機会あるごとにみんなに言ってきたあのエールを最後に送り、私からの餞(はなむけ)の言葉といたします。「城南生 未来を掴め。」

校長 伊藤 俊



WWL 第2回みらい東北高校生サミット

3月15日(土)、東北工業大学八木山キャンパスを会場に「第2回みらい東北高校生サミット」を開催しました。今年度、文部科学省より指定を受け、本校が WWL 拠点校となっており、連携協力校の13校とともに活動してきました。これは、新たな社会づくりの人材育成を図る取組の、今年度のまとめのイベントでした。台湾からのオンライン参加も含め約140人の高校生が参加し、社会課題の解決に向けた探究型学習の成果を発表しました。後半は2040年の世界や日本、東北の課題のテーマごとにグループを作り、解決のアイデアをワークショップ形式で話し合いました。他校生とコミュニケーションを取りながら、高校生らしい視点で活発な意見交換がなされました。本校が長年重点的に取り組んできた「探究」の成果がいかに発揮され、城南生の「思考力・判断力・表現力」の向上が感じられるイベントとなりました。

※WWL(ワールドワイドラーニングコンソーシアム構築支援事業)



International Student Forum に参加

1月17日(金)～19日(日)に早稲田渋谷シンガポール校で開催された **International Student Forum 2025** に参加するため、2年生9名、1年生3名の計12名がシンガポールを訪れました。滞在中はホームステイを体験しました。

初日は、**Singapore Institute of Management** を見学しました。2日目は **International Student Forum** に参加し、ポスター発表を見学した後、ディスカッションにも加わりました。最終日には、早稲田渋谷シンガポール校の生徒や他校の参加者とともにシンガポールの街を探索し、異文化交流を深めました。

出発当初は緊張していた生徒も多かったものの、ホームステイ先やフォーラムを通じて他校や現地の生徒と打ち解け、帰国後には「とても楽しかった!」「友だちができて嬉しい!」「またシンガポールに行きたい!」と、目を輝かせて話していました。また、「次はもっと英語を話せるようになりたい!」と意欲を見せる生徒も多く、この経験が大きな刺激となったようです。



探究ポスターセッション

= 普通科総合進学コース =

3月3日(木)に1、2年の総進コース合同で「探究ポスターセッション」を行いました。これは、「探究基礎」「探究Ⅰ」の授業で調査してきたことをプレゼンテーション、ポスターセッション形式で発表し、意見を交換することで、多面的に物事を見る力を養い、自分たちを取り巻く様々な課題について、より深く考える学習活動です。東北工業大学等の大学の先生方にもお越しいただき、講評や助言をしていただきました。

仙台城南高校では、生徒自らが課題を設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析したり、周囲の人と意見交換・協働したりしながら進めていく探究的な学習活動をこれからも推進していきたいと思います。

